

## A・Bプログラムの見どころ

ダンサーとしての最後の舞台にマニュエル・ルグリが選んだのは2演目。『Árbakkinn』では、パリ・オペラ座出身のヴァラストロの振付で、エレオノラ・アバニャートと愛の物語を紡ぎ出す。『The Picture of...』は、2008年、オペラ座エトワール引退を目前にしたルグリが、振付家パトリック・ド・バナと初めてタッグを組み新たな表現の領域へと踏み出した記念碑的作品。今回は改訂を施したニューヴァージョンが披露される。オペラ座を離れてからのルグリの旅路の終着点とも言うべきパフォーマンスとなるだろう。

マチュー・ガニオがプティの傑作『アルルの女』と『病める薔薇』に初挑戦することも大きな話題だ。マチューの両親ドゥニ・ガニオとドミニク・カルフーニは、プティのインスピレーションを刺激する重要なダンサーとして数々の名演を繰り広げてきた。『アルルの女』も2人の代表作のひとつ。それゆえ誰もがマチューが『アルルの女』を踊ることを待ち望んでいたわけだが、おそらくは両親に伍する舞台を披露する確信が持てるまでは自ら封印してきたのだろう、今回満を持して取り組む。もとより『プルースト』などでプティ作品との相性の良さは証明済み。

マリアネラ・ヌニェス&ワジム・ムンタギロフは火花が炸裂するような祝祭感満載の『チャイコフスキー・パ・ド・ドゥ』はもちろん、日本では意外と見る機会のない『海賊』にも期待。2人はこの5月にローマでマルティネズ版『海賊』で共演したばかりだ。

スヴェトラナ・ザハロフは、Aプロで美しい魂の交感が見られるド・バナとのデュエット『Digital Love』と『瀕死の白鳥』、Bプロでゴージャスな『ダイヤモンド』と、彼女の多面的な魅力が味わえそうだ。

また、今回のさらなる白眉となりそうなのが、ナタリア・オシポワとエドワード・ワトソンが踊るアーサー・ピタ振付の新作『Somebody Who Loves Me』。ピタの名前は日本ではまだあまり知られていないが、カフカの『変身』を舞踊化して主演のワトソンにオリヴィエ賞をもたらした、2019年のオシポワ『The Mother』でも英国にセンセーションを巻き起こした気鋭の振付家。ともにコンテンポラリー作品の名手で、鬼気迫る演技力を備えたオシポワとワトソンの2人が創造する新しい世界——これは見逃せない。

(新書館「ダンスマガジン」編集委員 浜野文雄)

**Aプログラム**  
 日程: 2022. **11.24(木)** 19:00開演  
**11.25(金)** 13:00開演  
**11.26(土)** 13:30開演

**Bプログラム**  
 日程: 2022. **11.26(土)** 18:30開演  
**11.27(日)** 13:30開演

料金: S ¥19,000 / A ¥17,000 / B ¥14,000 / C ¥10,000 / D ¥6,000 (全席指定・税込)

チケット取扱

TBSチケット <https://tickets.tbs.co.jp/ssg2022/> **スーパースターガラ** TBSチケット 検索  
 チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/super-stars-gala/> セブン-イレブン (Pコード:514-290)  
 ローソンチケット <https://l-tike.com/superstarsgala/> ローソン、ミニストップ店内Loppi (Lコード:34986)  
 イープラス <https://eplus.jp/superstars-gala/> Family Mart店舗  
 東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650 (10:00~18:00 休館日を除く) <http://www.t-bunka.jp/>

主催: TBS / サンライズプロモーション東京 / MIYAZAWA & Co. 企画協力: ベルチエ・アソシエイツ  
 お問い合わせ: サンライズプロモーション東京 0570-00-3337 (平日12:00~15:00)

※未就学児童入場不可。※車椅子席をご希望のお客様はS席チケットをご購入の上、サンライズプロモーション東京へお問い合わせください。※本公演は自治体や政府のガイドラインに沿った上で、新型コロナウイルス感染予防・感染拡大防止対策を講じ、開催致します。※表記の出演者・演目は8月17日現在の予定です。新型コロナウイルスの感染拡大状況、日本政府および出演者の居住国の政府による急な方針変換に伴う渡航規制などが生じた場合は予告なく変更になる場合がございます。出演者変更によるチケットの払い戻し、日にち変更はお受けできません。予めご了承くださいませよう、お願い申し上げます。



マニュエル・ルグリ

ナタリア・オシポワ & エドワード・ワトソン

マチュー・ガニオ  
©Hidemi Seto

マリアネラ・ヌニェス & ワジム・ムンタギロフ  
©ROH, 2017. Photo by Bill Cooper

スヴェトラナ・ザハロフ  
©photo by E. Fetisova

世界の頂点に君臨する  
 スターダンサーが東京に集結!

# Super Stars Gala 2022

スーパースター・ガラ

2022. 11.24(木)~27(日) 東京文化会館大ホール

## Aプログラム

### 「スパルタクス」

振付:ユーリ・グリゴローヴィチ 音楽:アラム・ハチャトゥリアン  
ダリア・パヴレンコ、ダニエラ・コルスンツェフ

### 「シェヘラザード」

振付:ミハイル・フォーキン 音楽:ニコライ・リムスキー=コルサコフ  
ダリア・パヴレンコ、ダニエラ・コルスンツェフ

### 「チャイコフスキー・パド・ドゥ」

振付:ジョージ・バランシン 音楽:ピョートル・I・チャイコフスキー  
マリアネラ・ヌニェス、ワディム・ムンタギロフ

### 「白鳥の湖」より黒鳥のパド・ドゥ

振付:マリウス・プティパ 音楽:ピョートル・I・チャイコフスキー  
マリアネラ・ヌニェス、ワディム・ムンタギロフ

### 「The Picture of…」<新バージョン>

振付:パトリック・ド・バナ 音楽:ヘンリー・パーセル  
マニエル・ルグリ

### 「Árbakkinn」<日本初演>

振付:シモーネ・ヴァラストロ 音楽:オーラヴル・アルナルズ  
エレオノラ・アバニャート、マニエル・ルグリ

### 「アルルの女」

振付:ローラン・プティ 音楽:ジョルジュ・ビゼー  
エレオノラ・アバニャート、マチュー・ガニオ

### 「病める薔薇」

振付:ローラン・プティ 音楽:グスタフ・マーラー  
エレオノラ・アバニャート、マチュー・ガニオ

### 「Limbaé」

振付:エレナ・マルティン 音楽:アラ・マルキアン  
エレナ・マルティン

### 「Wind and Clouds」<世界初演>

振付:パトリック・ド・バナ 音楽:エツイオ・ポッソ  
エレナ・マルティン、パトリック・ド・バナ

### 「瀕死の白鳥」

振付:ミハイル・フォーキン 音楽:カミーユ・サン=サーンス  
スヴェトラナ・ザハロワ チェロ:金木博幸 ハープ:中村 愛

### 「Digital Love」

振付:パトリック・ド・バナ 音楽:ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル  
スヴェトラナ・ザハロワ、パトリック・ド・バナ

### 「ウルフ・ワークス」

振付:ウェイン・マクレガー 音楽:マックス・リヒター  
ナタリア・オシポワ、エドワード・ワトソン

### 「Ashes」

振付:ジェイソン・キッテルバーガー 音楽:ゴラン・グレゴヴィッチ  
ナタリア・オシポワ

### 「インポッシブル・ヒューマン」

振付:アーサー・ピタ 音楽:ベヴ・リー・ハーリング  
エドワード・ワトソン

# 世紀のダンサー、 マニエル・ルグリの”ラスト・ダンス” マチュー・ガニオの「アルルの女」 世界初披露など、見どころ目白押し!

「スーパースター・ガラ」の名にふさわしい陣容だ。ルグリ、ザハロワ、ガニオ、ヌニェス、ムンタギロフ、オシポワ……いまバレエ界に君臨する新旧のスーパースターが一堂に会する。

パリ・オペラ座の大エトワールとして日本でも数々の名舞台を披露し、またウィーン国立バレエ、ミラノ・スカラ座バレエの芸術監督として名伯楽ぶりを発揮するルグリが、この公演でダンサーとしての終止符を打つ。そのルグリの後を継いで、現在オペラ座の中心的存在として輝くガニオが、両親の当たり役であるプティの名作「アルルの女」に初めて挑むのも話題だ。いっぽうロイヤル・バレエでフォンテイン&ヌレフを想起させる名パートナーシップで舞台を沸かせるヌニェス&ムンタギロフは、今回も舞台を興奮の坩堝に巻き込んでくれるに違いない。自ら先鋭的なクリエイターに次々新作を依頼し、かつてのギエムを思わせる活躍ぶりを見せるオシポワが、コンテンポラリー作品を日本で初披露するのも注目。すべてが見逃せないガラ公演だ。

(新書館「ダンスマガジン」編集委員 浜野文雄)



※Aプログラムでも特別録音による音源を使用します。



ダリア・パヴレンコ&  
ダニエラ・コルスンツェフ

マリアネラ・ヌニェス&  
ワディム・ムンタギロフ



ナタリア・オシポワ&  
エドワード・ワトソン

エレナ・マルティン



パトリック・ド・バナ

スヴェトラナ・ザハロワ

## Bプログラム

### 「シェヘラザード」

振付:ミハイル・フォーキン 音楽:ニコライ・リムスキー=コルサコフ  
ダリア・パヴレンコ、ダニエラ・コルスンツェフ

### 「Russkaya Solo」

振付:カシヤン・ゴレイゾフスキー 音楽:ピョートル・I・チャイコフスキー  
ダリア・パヴレンコ

### 「チャイコフスキー・パド・ドゥ」

振付:ジョージ・バランシン 音楽:ピョートル・I・チャイコフスキー  
マリアネラ・ヌニェス、ワディム・ムンタギロフ

### 「海賊」

振付:マリウス・プティパ 音楽:リカルド・ドリゴ  
マリアネラ・ヌニェス、ワディム・ムンタギロフ

### 「アルルの女」

振付:ローラン・プティ 音楽:ジョルジュ・ビゼー  
エレオノラ・アバニャート、マチュー・ガニオ

### 「病める薔薇」

振付:ローラン・プティ 音楽:グスタフ・マーラー  
エレオノラ・アバニャート、マチュー・ガニオ

### 「The Picture of…」<新バージョン>

振付:パトリック・ド・バナ 音楽:ヘンリー・パーセル  
マニエル・ルグリ

### 「Árbakkinn」<日本初演>

振付:シモーネ・ヴァラストロ 音楽:オーラヴル・アルナルズ  
エレオノラ・アバニャート、マニエル・ルグリ

### 「MEDEA MOTHER」

振付:パトリック・ド・バナ 音楽:マックス・リヒター  
エレナ・マルティン、パトリック・ド・バナ

### 「メディア」

振付:ホセ・グラネーロ 音楽:マノロ・サンルーカル  
エレナ・マルティン

### 「ジュエルズ」よりダイヤモンド

振付:ジョージ・バランシン 音楽:ピョートル・I・チャイコフスキー  
スヴェトラナ・ザハロワ、ダニエラ・コルスンツェフ

### 「Digital Love」

振付:パトリック・ド・バナ 音楽:ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル  
スヴェトラナ・ザハロワ、パトリック・ド・バナ

### 「Somebody Who Loves Me」<世界初演>

振付:アーサー・ピタ 音楽:ジョージ・メリル、シャノン・ルビカン  
ナタリア・オシポワ、エドワード・ワトソン

### 「Ashes」

振付:ジェイソン・キッテルバーガー 音楽:ゴラン・グレゴヴィッチ  
ナタリア・オシポワ

### 「インポッシブル・ヒューマン」

振付:アーサー・ピタ 音楽:ベヴ・リー・ハーリング  
エドワード・ワトソン

## 出演者



マニエル・ルグリ  
元パリ・オペラ座バレエ団エトワール  
ミラノ・スカラ座バレエ団芸術監督



マチュー・ガニオ  
パリ・オペラ座バレエ団  
エトワール



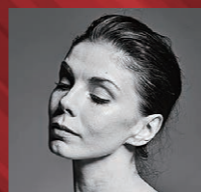
スヴェトラナ・ザハロワ  
元パリ・オペラ座バレエ団  
プリンシパル



マリアネラ・ヌニェス  
英国ロイヤル・バレエ団  
プリンシパル



ワディム・ムンタギロフ  
英国ロイヤル・バレエ団  
プリンシパル



ナタリア・オシポワ  
元英国ロイヤル・バレエ団  
プリンシパル



エドワード・ワトソン  
元英国ロイヤル・バレエ団  
プリンシパル



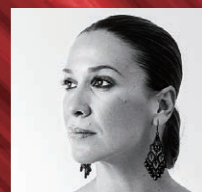
エレオノラ・アバニャート  
元パリ・オペラ座バレエ団エトワール  
ローマ歌劇場バレエ団芸術監督



ダニエラ・コルスンツェフ  
元マリインスキー・バレエ  
プリンシパル



ダリア・パヴレンコ  
元マリインスキー・バレエ  
プリンシパル



エレナ・マルティン  
元スペイン国立バレエ団  
プリンシパル



パトリック・ド・バナ  
フリーランス・ダンサー、振付家  
本公演芸術監督